

玉垂

たまだれ
No.36

逆光に輝く紅葉（平成24年11月25日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

秋の恵み

本年四月の新東名開通後初めての紅葉シーズン、各地よりの参拝者に色鮮やかな情景をお楽しみ戴きました。事待池と紅葉のコントラストの美しさに目をうばわれる方が多く見受けられましたし、宮川の赤橋付近では誰もが写真を撮っておられました。また、宮川の上流に続く遊歩道では、お子様連れのご家族が綺麗な落ち葉を仲良く集めていました。十二月の初旬に低気圧が通過しほとんどの葉が散った後には、土の道の上が落ち葉によって赤や黄色に彩られました。春の花見と秋のもみじ狩りは、日本人の豊かな感性によるもので「大和心」を感じます。来年も今年のように、長期間の観賞を期待しております。

さて、新嘗祭には氏子の皆様方よりご神前に多くの農産物を奉獻戴きましたこと、厚く御礼申し上げます。品評会の表彰の通り当地方の秋の味覚といえば様々ありますが、代表的なところでは次郎柿です。次郎柿は江戸末期に森町の農民・松本治郎氏が太田川の河原で見つけた幼木がルーツで、その後品種改良され全国に広まったとされています。現在でもその原木があり、静岡県の天然記念物に指定されています。平成十八年十一月には、当社をご参拝遊ばされました伊勢神宮の池田厚子祭主様が立ち寄られ、原木から実を摘み取られました。また、森町としては、毎年皇室に献上させて戴いているところでもあります。当社の氏子地域では多くの柿農園があり、枝の剪定や施肥等を研究し互いに切磋琢磨して更なる品質の向上に努められております。

一方、十一月下旬に紅葉祭を斎行し、直会は地元の自然薯料理と当社に伝わる古式神酒にて執り行いました。古式神酒の造り方については詳しい記録がなく、現在でも神職の口伝により伝承されています。年四回の酒造りは新米が収穫されてからの十月が最初の仕込みで、約一ヶ月で出来上がり、新嘗祭前の稲祭からご神前にお供えすることが恒例となっております。稔りの秋は、このように大神様のご神徳を頂戴いたしているところであります。

この時期何かと慌ただしくなっております。氏子崇敬者の皆様方には、どうかご自愛の上良い新年をお迎え下さいますようお願い申し上げます。

新嘗祭の斎行・ 奉納農産物品評会の表彰

境内の紅葉が見頃を迎え、大勢の参拝者で賑わう十一月二十三日に新嘗祭が斎行されました。
ご神前には氏子の皆様方よりご奉納いただきました農産物をお供えし、大神様に今年一年の豊穰を感謝しご奉告申し上げました。

また、毎年恒例となります当社振興会主催の「奉納農産物品評会」が拝殿前にて開催されました。

本年度で五十六回目を迎える品評会は、夏の台風による塩害の影響が作物の成長に影響をあたえる等の心配がされましたが、おかげ様にて昨年より三十点ほど多い三四五点もの奉納をいただきました。新嘗祭斎行後の即売会にて奉納農産物は大盛況のうちに完売となりました。

ここに品評会にて受賞されました方々をご報告させていただきますとともに、氏子内の部長会長様をはじめご協力いただきました関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げます。

〈協力賞〉

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 円田上部農会
- 第三位 中川上部農会
- 第四位 上川原部農会
- 第五位 橘 部農会

〈小國神社賞〉

- 米 中川上 鈴木 定男
- 茶 中川上 本多 利吉
- 大根 赤 根 小池 まさ子
- 白菜 中川上 小林 利雄
- 治郎柿 谷 中 朝比奈 篤



奉納農産物品評会
「大根の部」
(11月23日)



新嘗祭当日の
宮川の紅葉
(11月23日)

〈遠州中央農業協同組合代表理事賞〉

- 米 橘 白幡 富幸
- 米 円田上 鈴木 伸明
- レタス 谷 中 鈴木 樹
- 柿 谷 中 朝比奈 教人
- 椎茸 橘 高木 一彦

〈小國神社振興会賞〉

- 黒豆 大久保 天野 享一
- ネギ 牛 飼 寺田 勝
- 馬鈴薯 中川上 石黒 朔郎
- メロン 米 倉 今村 芳信
- ほうき 米 倉 平田 一利

〈特等賞〉

- 大豆 円田上 鈴木 利枝
- キャベツ 草ヶ谷 山本 房一
- かぶ 赤 根 筒井 丑丸
- 生姜 宮代西 山田 洋志
- ヤマイモ 中川上 永澤 洋志

〈特別賞〉

- 十五点出品 牛 飼 村松伊佐雄 (敬称略)

篤志奉納者へ感謝状の贈呈

本年も新嘗祭の斎行後、拝殿におきまして篤志奉納者の皆様へ感謝状と記念品の贈呈をいたしました。

ご奉納いただきました皆様のご芳名を掲載し、改めて厚く御礼申し上げます。

- 石碑一基「敬神崇祖」 杭迫 柏樹
- 枝垂れ桜・三ヶ日石 (有)一十園
- 絵画一幅「昇金辰図」 萬家 一齋
- 日本画一幅「花菖蒲」 栗原 幸彦
- 浄財 (株)鈴木長十商店
- 浄財 (株)久米吉
- 浄財 鈴木 愛子



浄財奉納により新装となった門前の「一の鳥居」(12月3日)



栗原幸彦画伯奉納の「花菖蒲」

- 浄財 鈴木 直子
 - 浄財 高岡 巨弥
 - 神饌米 鈴木 孝
 - 神饌米 村松伊佐雄
- (順不同・敬称略)

遠州とこわか塾 第三期の開催

九月一日より「遠州とこわか塾」が第三期(平成二十四年九月一日～平成二十五年八月三十一日)を迎え、十月十四日(日)には開塾式並びに第一回目が開催されました。開塾式では、塾長であります打田宮司より、当塾の趣意をご説明し、近況も交えながらご挨拶申し上げました。その後、塾生たちは、拜殿におきまして正式参拝をいたしました。

第三期の第一回目は、静岡県ご出身の元NHKアナウンサーで現在語り部「かたりすと」として活躍されております平野啓子氏をお招きし、「語りの夕べ」と題し開催いたしました。本年は編纂一三〇〇年となる「古事記」を前期より貫した題材として進めてまいりました。今回は「森町の民話」と「古事記」の二部構成による平野氏の語りを鑑賞いたしました。

第一部は、まず冒頭で小國神社境内にまつわるお話しをされ、森町教育委員会の「森町ふるさとの民話」より「葛布の赤牛」と「桜御前さま」のお話しを拝聴いたしました。地元の話でもあるので、その背景がよくわかったのではないかと思います。

第二部の「古事記」では、「天地開闢」からイザナキイザナミの「国生み」、天照大神の「天の岩戸」、スサノオノミコトの「八岐大蛇」、大國主大神の「因幡の白兔や数々の試練」、そして「国譲り」まで「連の語り」をされました。

臨場感あふれる語り口の中にも笑いを交えたり、古事記に記載されている神話という歌曲を神秘的に歌われるなど時の経過を感じさせない公演となりました。

鳥居 禮画伯による舞楽絵

「連舞」「蝶の舞」が完成



蝶の舞

連舞

民話もちろん、古事記・日本書紀など日本を知る上で重要な書物です。話の内容を正しく理解することも大切ですが、その上で絶えることなく継承し続けることにも大きな意義があると思えます。



平野啓子氏による「古事記・語りの夕べ」(10月14日)

「紅葉まつり」の開催

十一月二十五日、紅葉の見頃を迎えた境内において恒例の「紅葉まつり」を開催いたしました。早朝より多くの参拝者が訪れる中、舞殿におきまして琴の奉納演奏、斎館前と宮川沿いでは野点が行われました。また、甘酒や当社敬神婦人会によるおしるこ、菓子青年会によるおはたき餅が振る舞われました。

本年は、台風による塩害により紅葉の色づき具合が懸念されましたが順調に色付き、絶好のシーズンとなりました。日中は、目映いほどに光り輝き、また夜間のライトアップでは神秘的に映り、終日多くの方々にお楽しみ頂きました。



紅葉まつり野点・山下社中 (11月25日)

「くにたまの会」設立

このたび、全国の「大國主大神並びに御別名の神」を御祭神として奉斎し鎮座する神社により、「くにたまの会」が設立されました。十一月七日には大國主大神のお膝元であります出雲の地において発会式が開催されました。当社も御別名「大己貴命」を奉斎するご縁をもちまして参加いたしました。

「くにたま」とは、御別名であります「宇津志國玉神」「大國玉神」から由来しております。「大國主大神」は、この他にも多くの御別名で讃えられているところからもその御神業が偉大であることがわかります。殊に日本全国の国づくり御尽力され、「天照大御神」への「国譲り」をすることにより日本国の始まりを迎えることができました。「くにたまの会」は、その御神徳を宣揚し、各地域の活性化に貢献することを目的とします。

来る平成二十五年は、二十年に一度の伊勢の神宮の御遷宮とともに、六十年に一度の出雲大社の御遷宮が行われる慶賀の年にあたります。この再生により発揚される格別の御神威を、各地域はもとより全国に賜り、共有できましますよう進めてまいります。



「くにたまの会」設立総会にて千家総裁のご挨拶 (11月7日)



神道政治連盟推薦
参議院議員 比例代表（全国区）
ありむら 治子

「時間軸を持つこと」

先の大戦末期に特攻基地があった鹿児島県知覧の特攻平和会館を訪れた時のことです。入場した途端、正面のガラスケースに収められた一幅の掛軸が目飛び込んできました。今から七十年近く前、特攻隊員の一人が墨痕鮮やかに遺した書には、

岩が根も 砕かざらめや 武士の
國の為にと 思ひ切る太刀

と書かれています。

この歌はそもそも、今から約百五十年前の「桜田門外の変」に十七名の水戸の方々とともに、唯一人藩を代表する気概をもって参加

ありむら 治子

した薩摩浪士・有村次左衛門が詠んだ辞世の句であります。

幕末、二十一才で自刃した四代前の先祖の歌を、まさか特攻平和会館で見ることになるとは思いもかけず、不意打ちを喰らったように目頭がジーンと熱くなり、これから最前線に赴く特攻隊員の心理状況が伝わってくるような厳肅な気持ちになりました。幾多の国難に立ち向かって歴史が重ねられていく蓄積をズシリと感じた経験でした。

初当選以来十年以上もの間、神界の皆様にご交誼を頂き、国家観や歴史観に多くの示唆を賜ってきたことは、政治家としての糧で

あり、誇りであります。

何代にもわたって先祖の系譜を継いでこられた神職の先生方が多くいらつしやることは、神界のみならず、日本の宝だ、と感じます。日本各地に、歴史の縦糸を紡ぎ、遺していく価値観が根付いているからこそ、百二十五代に到るまで一貫して継承されてきたご皇室の尊さを受け継いでいこうという国民性が涵養されてきたのでありましょう。

神界の先生方が体現されている概念に「中今」というものがあります。有史以来二千数百年の我が国悠久の歩みを考えれば、私達人一人一人が生を紡ぐ数十年は、例えてみれば「まばたき・一瞬」に過ぎないものかもしれません、過去・現在・未来と連続し、歴史における時間軸を認識し、その時々、「中今」命のリレーの中間走者」としての役割を与えられた自らが、できることを心してや

り遂げることが、保守の最大の務めだと認識しています。

先月、先週の世論調査、支持率動向に一喜一憂し、前週との比較に気を揉みながら意思決定をしようとする政党や政治家の現状は、余りにも時間軸に対する敬意と「中今」の矜持を失ったものであり、近視眼的なタコツボに陥ることへの警戒感を強めます。

目指すべきは、移ろいやすい世論調査の浮沈ではなく、いかにして歴史の評価に耐えうる意思決定を重ね、その指標を理解し共感して下さる国民の層を厚くするか、という時間軸を持ったぶれない戦略です。

民族が生を紡いできた証としての歴史や時間軸に敬意と誇りを持ち、複眼的思考と鳥瞰的視野を持って、真摯に日本の針路について議論し、歴史に謙虚に向き合い発信することのできる議会人でありたいと念願致します。

第十回 「写真コンテスト」のご報告

平成十四年より開催しております当社主催の写真コンテストが本年で第十回となりました。毎回多くの作品が寄せられ、写真展にて多くの皆様に様々な自然、祭事・行事等をお楽しみ頂いております。本年も三二九枚の作品の応募があり、去る八月八日に実行委員会による最終審査が実施され、各賞を決定いたしました。表彰式を九月八日に執り行い、作品展は同日より同月二十三日まで当社研修室にて開催いたしました。開催期間中は二〇〇〇人を超す来場者にお越しいただきました。引き続き十一回の写真コンテストを開催いたしますが、従来通りのテーマに加え境内に生息する「野鳥」の写真を新たに募集いたします。「古代の森」と謳われる境内は野鳥の宝庫と言われているので、是非多数のご応募をお待ちしております。

なお、開催にあたりご協力いただきました各後援・協賛者の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。



松浦ひろこ「清流にさそわれて」



藤森 佐一「神幸祭」



松浦 嘉「初夏の彩り」



加藤 昭「事待池と紅葉」



尾崎 行雄「シャクナゲ咲く参道」

最優秀賞 松浦ひろこ(浜松市)
 優秀賞 藤森 嘉(浜松市)
 優秀賞 加藤 昭(浜松市)
 特別賞 尾崎 行雄(浜松市)
 選出 伊藤 正義(浜松市)
 選出 木下 安雄(浜松市)
 選出 光飛田 悦弘(島田市)
 選出 杉本 昌弘(藤枝市)
 選出 小松 原 清(浜松市)
 選出 川田 廣行(浜松市)
 選出 金子 育史(浜松市)
 選出 鶴見 久之(森町)
 選出 鈴木 ヒロミツ(磐田市)
 選出 鈴木 辰雄(細江町)
 選出 村上 秀学(御前崎市)
 選出 村上 雅己(静岡市)
 選出 牧野 光一(浜松市)
 選出 遠野 洋一(森町)
 (敬称略)

命 名

平成二十四年五月一日()
平成二十四年十一月三十日

新貝 拓馬 掛川市
 内海 瑞太 掛川市
 青木 花恋 菊川市
 鈴木 那乃羽 浜松市
 下村 萌菜 森町
 吉山 愛津 浜松市
 佐藤 大愛 掛川市
 北谷 建太郎 磐田市
 山下 翔大 掛川市
 山下 剛雅 磐田市
 山下 友里 森町
 福井 結仁 掛川市
 中山 怜美 掛川市
 山本 凌己 掛川市
 山本 透輝 袋井市
 追田 妃麻里 磐田市
 岩本 樹 磐田市
 堀内 優那 知立市
 岡庭 萌果 袋井市
 小林 剛志 袋井市
 小林 咲穂 菊川市
 藤原 誠太 掛川市
 大橋 那都 牧之原市
 辻村 玲雄 袋井市

鈴木 瑚夏 掛川市
 北出 怜 浜松市
 浪田 結愛 浜松市
 浪寄 愛莉 浜松市
 菅沼 美有 森町
 片桐 想太 浜松市
 松井 咲綾 浜松市
 栗田 栞那 掛川市
 八田 剛志 浜松市
 鈴木 琉生 掛川市
 高森 心太郎 掛川市
 山本 穂己 掛川市
 白岩 輝杜 菊川市
 勝又 寛太 磐田市
 大場 幸音 森町
 牧野 結衣 磐田市
 佐藤 桔梗 掛川市
 鈴木 菜希 浜松市
 榎葉 瑚子 静岡市
 武藏谷 藍 掛川市
 村松 輝哉 掛川市
 小倉 遠哉 掛川市
 松尾 純希 掛川市
 揚張 清都 御前崎市
 小栗 乎暖 森町
 本多 凜々子 御前崎市
 寺田 都季葉 御前崎市
 塚崎 蒼斗 湖西市
 村松 玲音 森町
 足立 圭汰 浜松市
 高田 優斗 浜松市
 玉村 知咲 横濱市
 鈴木 駿汰 袋井市
 佐々木 謙治 浜松市
 内藤 佑真 牧之原市

富田 愛華 袋井市
 松下 結愛 袋井市
 田中 大晴 御前崎市
 鈴木 陽太 森町
 伊藤 佑真 袋井市
 山下 航希 袋井市
 野中 寿莉 掛川市
 早川 心葉 掛川市
 山下 実穂 磐田市
 小林 誠信 掛川市
 鈴木 優奈 磐田市
 川手 愛香 磐田市
 平野 歩武 浜松市
 光安 新来 磐田市
 三ツ谷 穂里 掛川市
 近藤 篤都 磐田市
 佐々木 晴香 静岡市
 鈴木 葵衣 東京都
 大脇 真都 袋井市
 濱口 寛人 浜松市
 佐藤 琉生 浜松市
 大石 健太 浜松市
 林 祥光 森町
 太田 登翔 浜松市
 勝浦 里帆 菊川市
 馬淵 愛都 浜松市
 塩見 航己 掛川市
 木村 直葉 掛川市
 早坂 凜咲 春井市
 山本 莉瑚 袋井市
 栗田 眺歩 森町
 竹島 雪仁 掛川市
 大庭 蓮翔 掛川市
 松島 歩飛 浜松市
 鈴木 一心 袋井市
 寺田 純奈 磐田市

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

古代の森シリーズ 36

鎮火祭

鎮火祭とは「ほしずめのまつり」ともいい、毎日の生活に欠かせない火の恵に感謝し、神々に一年間の防火と火難除けを祈願する祭典です。当社では、毎年十二月中旬に森町長始め消防団員の皆様をご案内し斎行致します。祭典後には、防火を祈願した神札が授与され町内の各家庭に配布されお祀りされています。

祭典では砂を入れた箱の中に薪を井桁状に積み、火打ち石にて点火神事を行います。金幣にて「火」を祓い清め玉串拝礼の後、鎮火神事を行います。「水神匏埴山比売川菜を以て鎮め給へ」と奏上し、まず川菜、次に川砂、最後に匏にて水を掛けて鎮火します。

この祭典は、国家が行う祭祀の大綱を定めた「神祇令」に記載されており、六月と十二月の大祓式に引き続き行なわれたと伝えられています。さらに「令義解」によると鎮火祭は宮城（宮中）の四方の隅において火災を防ぐため、卜部氏が行ったと記されており、それが徐々に地方にも広がり、全国の神社にて特色のある神事の形にて斎行されるようになっていったと考えられます。



匏（ひさご）（右）と火打石

師走の大祓

十二月三十一日午後三時より師走（年越）の大祓式を斎行致します。当日、ご参列いただければ神職とともにお祓いをお受けいただけますので、是非ともご家族の皆様お揃いでお申し込みの上、ご参列いただきますようご案内申し上げます。

尚、大祓の人形は一ヶ月前より、ご祈禱をお受けいただきました方々に、または社頭にてお頒け致しております。ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。皆様と一緒にお祓いをして、清々しく新たな気持ちで新年を迎えましょう。

小國神社社務所 祭儀課 大祓係
TEL 〇五三八一八九七三〇二
FAX 〇五三八一八九七三六七



師走の大祓（平成23年12月31日）

新春祈禱のご案内

平成二十五年の新春祈禱を例年通りご奉仕いたします。当日の受付は混雑が予想されますので、年内の予約受付をご利用ください。尚、個人の祈禱は当日受付にて毎日ご奉仕いたしております。ご家族お揃いでご参拝くださいませようご案内申し上げます。

一、予約対象 会社及び個人事業者
一、申込方法 電話またはFAX等にて申し受けます。



恒例のどんと焼（平成25年は1月20日に斎行）

一、ご相談、ご不明の点がありましたら、左記までお問い合わせください。

小國神社 新春祈禱予約係
TEL 〇五三八一八九七三〇二
FAX 〇五三八一八九七三六七



菊花展の開催（11月5日）



七五三詣の社頭（11月10日）

まつり歳時記

十二月～三月

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十五日 鎮火祭 (午後三時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 二十三日 天長祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 二十九日 甲子祭 (午前九時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 日田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 昭和田皇祭遙拝式 (午前八時)
- 七日 神明宮参拝 (午前九時)
- 十一日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十一日 手鋸始祭 (午前九時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前九時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 どんと焼祭 (午前九時)
- 二十日 二月三日 厄除大祭

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元祭 (午前十時半)
- 十五日 養社毘王子社白出例祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)
- 二十七日 初甲子祭 (午前九時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
 - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
 - 十七日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
 - 十七日 鉾執社例祭 (午後一時半)
 - 十八日 月次祭 (午前九時)
 - 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前八時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月十七日 前日祭 (午前十時)
 - 十八日 例祭 (午前十時)
 - 二十日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 二十一日 舞楽奉奏 (午前十一時)
 - 二十二日 神幸祭 (午後二時)

厄除大祭のご案内

一月二十日～二月三日

人生の節目に当たる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難に多いやすい年頃といわれ、無事を願う気持ちは今も昔も変わりません。

小國神社では一月二十日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。平成二十五年の厄年に当たると方は、「厄除」のご祈禱をお受けになり、健やかな日々の生活をお過ごしください。

尚、二月三日は混雑いたしますのでお早めにお越しくださいますようご案内申し上げます。

- 祈禱料 五、〇〇〇円より
- 厄除大祭神札及び御守を授与いたします。
- 祈禱受付 午前九時～午後四時

一平成25年 厄年表一

男	前厄	本厄	後厄
	昭和29年 60才	昭和28年 61才	昭和27年 62才
性	昭和48年 41才	昭和47年 42才	昭和46年 43才
	平成2年 24才	昭和64年 平成元年 25才	昭和63年 26才
女	昭和53年 36才	昭和52年 37才	昭和51年 38才
	昭和57年 32才	昭和56年 33才	昭和55年 34才
性	平成8年 18才	平成7年 19才	平成6年 20才



拝殿前の大杉と「金環日食」(5月21日)



日本画家・松井冬子氏(左)(森町出身)ご母堂様とご参拝(10月29日)



新装となった「こまち池の赤橋」(12月3日)

「小國の杜・点描」



遠州公開講座「古事記・日本神話に秘められた国の原点」
林 英臣講師(10月28日)



敬神婦人会研修旅行・昭和聖徳記念館見学(7月4日)



振興会視察研修旅行・生田神社正式参拝(9月11日)

平成二十四年十一月十八日
 「玉垂」(たまだれ)第三十六号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七一〇二二六
 住所 静岡県周知郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
 FAX 〇五三八(八九) 七三六七一
 印刷 (株)デザインオフィス エム・エス・シー

平成二十四年十一月二十五日(日)午前十一時十五分、宮川沿の「逆光に輝く紅葉」を撮影いたしました。このポイントに陽光が射し込むのは、一日の中でも三時間程度しかありません。爽秋の貴重な一時となります。

表紙写真について

○「玉垂」三十六号をお届けいたします。秋の祭事・行事を「報告」させて戴きました。ご浄財の奉納により鳥居二基をはじめとして、境内各所の橋が塗り替えられ新装となりました。崇敬者各位の貴い信仰に只々感謝申し上げる次第であります。

○ロンドンオリンピックの女子レスリング競技には感動いたしました。国民栄誉賞を受賞された吉田沙保里選手、三連覇の伊調馨選手、そして涙の金メダルの小原日登美選手です。アスリートとしてのひた向きの努力が報われて、本当に嬉しい限りです。今後も節分祭の年役としてご奉仕戴ければ幸いです。

編集後記



氏子青年会の活動
「おはたき餅」のおもてなし
(11月23日)